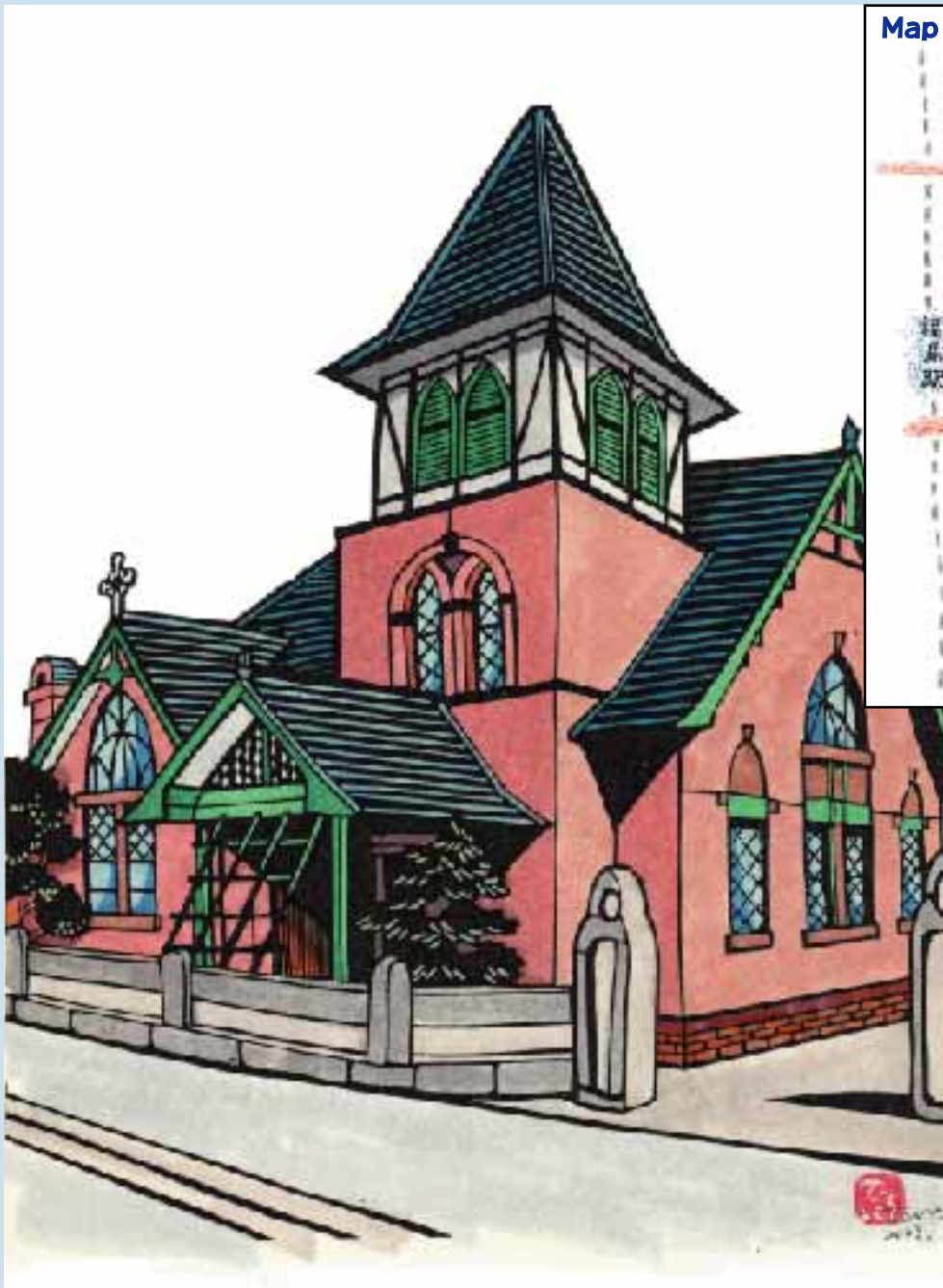


# しのぶが丘

No.31  
2009  
SPRING

**特集** 女性の働き方を通して考えるー。  
「バランスのとれた快適な暮らし。」

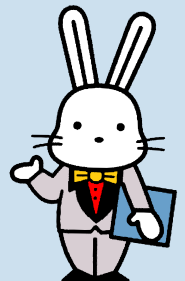
まちづくりに魅せられて ~やさしく楽しく元気にをモットーに~  
柳町・御倉町町会長 蓮沼 幹子 さん



## 表紙紹介

宮下町教会(日本キリスト教団福島教会)は、明治時代にウィリアム・メレル・ポーリスによって設計されたもので、国の登録有形文化財になっています。

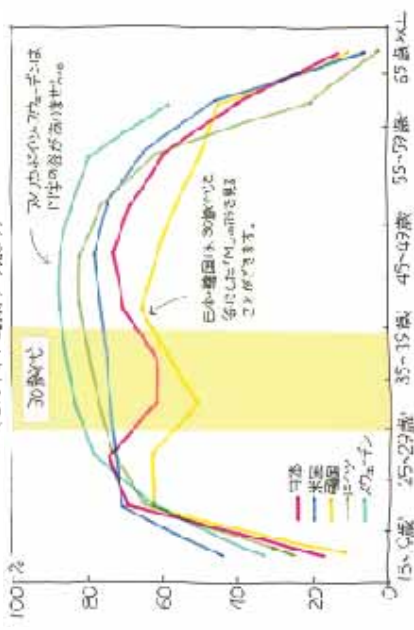
暖かくなってきたこの頃、御倉邸など福島再発見に出かけてみませんか？



# 女性の働き方を通して考える バランスのとれた快適な暮らし。

## 日本の女性の働き方には、どんな特徴があるの？

女性の雇用階級別労働力率  
(2024年 労働統計調査より)



「日本は30代前半の女性の割合が高いですね。」

日本・韓国では結婚、出産、子育て期である30歳代にぐっと減ります。一方、アメリカ・ドイツ、スイス・韓国では減少はほとんどみられません。減少がみられない要因として、仕事と子育ての両立支援策の充実など、人生の段階(ステージ)において、女性が働きやすい環境等の整備があると考えられます。



「M型カーブとU型のカーブ」



問題を解決するため、「仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)」を目指し、平成20年度から国・県や市町村だけでなく、経済界や労働界も協力しながら、取り組みを始まりました。また、理解をすすめるために内閣府が「カエル！ジャパン」という推進キャラクターズを掲げ国民運動を行っています。仕事と生活の調和の実現は、私たち一人ひとりが望む生き方ができる社会の実現にとって大切です。あなたも仕事と生活の調和の在り方を考えてみませんか。

■あるたのぎ意見の聞かてくたさいよ お手紙またはFaxでお願ひします。  
〒970-8035 福島市本町2-6 男女共同参画センター「カス」とまう」 TEL:024-522-1528  
(E-mail) denryo@mail.city.fukushima.fuku-shima.jp

## あらゆる世代に合わせた働き方をめざして。

「経済的な自立をするために安定した仕事をしたい」、「仕事をしながら、子育ても両立したい」、「親の介護をしながら仕事を続けたい」、「仕事だけでなく自分の趣味も充実させたい」などあらゆる希望を持っている人が、「仕事と生活のあり方」についていろいろな希望を持っていると思います。希望の働き方を選択できることは、豊かな生活を送るために大切なことです。

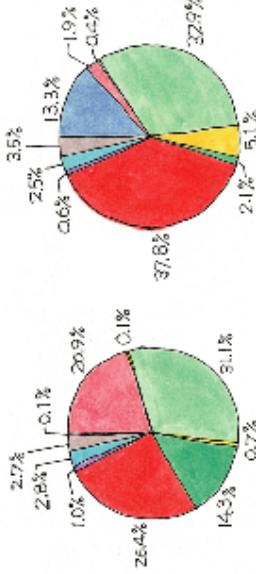
福島市では、5年毎にアンケート調査をお願ひして皆さんのお考えをお聞ひしています。



女性の「働き方」を切り口に、グラフから私たちが置かれている状況について見てみましょう。

## じゃあ、福島の人はどう考えているのかな？

男性と女性の望ましいと思ひ生き方  
(14年7月調査、福島県内市町村別に別開き調査結果より)



- 仕事と家庭を両立
- 仕事と子育てを両立
- 仕事と地域活動
- 仕事と介護
- 仕事とボランティア
- その他

今後、人口が減り高齢社会が進む中で、あらゆる人が豊かな気持ちで暮らしていくには、仕事や家庭生活、そして、地域活動についてもみんなで協力していくことが大切なかもしれません。

「ワーク・ライフ・バランス」を実現できる社会が、いいね。



# まちづくりに魅せられて ～やさしく 楽しく 元気に をモットーに～



福島市には約840の町内会組織があります。「自分たちが住む地域をどのようにするか」そして、「住民一人ひとりが積極的に参画できるようにしていく」など、町内会長は地域づくりの要(かなめ)です。

今回は、女性ならではの視点を活動に盛り込み、まだ数少ない女性の会長で、今や、市街地の活性化になくはない存在ともいえる柳町・御倉町町会長 蓮沼 幹子(はずぬま みきこ)さんにお話をうかがいました。

## ○町内会長になった経緯は

平成八年に役員の方々が高齢になり、「高齢者と若い人たちのパイプ役になれるような人」という条件で、女性の私に声がかかりました。

その時ちようど五十才。何かの縁かなと思いましたが。迷いましたが、家族にも背中を押されて、思いきって引き受けたのが始まりです。

## ○活動を続けてきて得たものは

地域の人たちとの意見調整など大変なことも多いのですが、町内会長という活動を通して、多くの人たちと話す機会ができて、人脈も広がりました。

私の場合は「何でもやってみる」という前向きな気持ちが良い方向に働いているのだと思います。

「周りから育てていただいた」という気持ちが強いです。

## ○「おぐらへん」活動について

町内会長と並行して、「御倉町かいわいまちづくり協議会」の代表も務めています。日本銀行の支店長宅が今でも残っているのは全国的にも珍しく、御倉町周辺は、福島の歴史と文化を知るといっても貴重な場所であるというところを理解してもらいたい。そして、御倉邸を中心

としたこの歴史ある場所を皆さんに知ってもらい、市民のふれあいの場となるよう、季節を通してさまざまなイベントを行っています。

お花を植えたり、四季折々のメニューを「おぐら茶屋」で提供したりしています。

「やさしく 楽しく 元気に」をモットーに今後もさまざまな活動を通して、まちづくりを進めていきたいと考えています。

町内会長は男性の役割?そんな従来のイメージを払拭してくれるほど、精力的に活動される蓮沼さんを見て、「自分を育ててくれた地域に誇りを持ち、性別や年齢に関係がなく、みんなができることをやってみよう」という思いが、地域と深く関わり、自分らしい生き方を実践している。このようにいきいきと暮らしていくことが、いかに豊かな暮らしにつながるのかということに改めて実感しました。



▲「おぐら茶屋」で、『地域の資産を生かすことで福島市も元気になる』と嬉しいです。

## ○活動を通して思うこと

町内会の活動も、まちづくりも性別や固定概念にとらわれずお互いについていけることを生かして協力しあうことが大切だと考えています。

町内会も三分の一は女性ですし、民生委員などで活躍している人も大勢います。

「忙しくて、久しぶりに孫が来てもゆっくり遊ぶ時間が取れないのが悩み」と笑う蓮沼さん。日々の充実ぶりがこちらにも伝わってきました。当分の間は、多忙な毎日が続きそうです。

## 《取材を終えて》



▲「町内会長は、住んでいる人たち同士や行政との間を取り持つパイプ役です。少しでも地域が良くなればと思います。」

「快適な暮らし」。一言で言い表すのは難しいと思います。

年代、性別、生き方によって考え方は様々です。人にはそれぞれの快適があると思います。自分にとって快適に暮らすことが、独りよがりにならないように周りを見回しながら生活することは大切だと感じました。いろいろな意味でバランス感覚を大事にしたいと思います。

柳町・御倉町町会長の蓮沼さんのお話で伺った「やさしく 楽しく 元気に」のモットーは、みんなを勇気付ける言葉だと思いました。いつも元気であることは、意外と簡単なことで難しい。周りを見回す余裕ができるのも元気でいられるからです。冬の寒さで縮こまった背中を伸ばし、春を感じるために、元気よくウォーキング! 福島のまちなか再発見のためにも、まずは元気よく体を動かしてきます!

## 編集集

### しのぶびあ編集委員会

- 伊藤啓子
- 加藤麻里
- 佐藤映枝
- 松本 恵

表紙: 切絵作家のさとうてるえさんの作品です。

※「しのぶびあ」は年2回発行。町内会巡回のほか、各学習センターなど市の窓口においてあります。また、市のホームページでもご覧いただけます。

